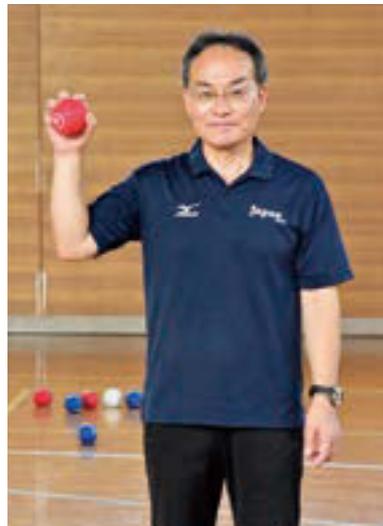


福島市からパラリンピック選手を

県ポッチャ協会

國分 章夫

さんに聞きました！



🐰ポッチャを始めたくっけを教えてください

私は障がいのある子どもが通う支援学校に勤務しているのですが、支援学校のスポーツ大会の種目にポッチャがあるんですね。そこで、肢体不自由の生徒たちに競技を教える機会があったのが、直接的なきっかけです。

その後、国際大会に生徒が出場したときに、アシスタント(注：障がいによりボールを投げるなどの動作が難しい場合、「ランプ」というスロープのようなものを使用して投球する。このサポートを行う)として参加しました。その大会で生徒と一緒に金メダルを取

れたことがうれしくて、競技としてのポッチャにのめり込むようになりました。今では、市内のポッチャ愛好会などでアシスタントとして活動したり、県ポッチャ協会を通じてポッチャ教室の講師をしたりしています。

🐰ポッチャはどんなところが魅力ですか？

ポッチャは元々脳性まひの方々が運動できるように考えられた競技なので、障がいのある人も無い人も、子どもからお年寄りまで幅広く、誰でもできるユニバーサルスポーツです。競技としては障がいの程度によるクラス分けがありますが、いろんな人が一緒になってプレーすることもできます。楽しさを共有したり、同じ目線でプレーしたりすることで、お互いへの理解が深まります。

さらに、競技としての側面を見ても、色々な戦術を考え

られる、頭を使う奥深い競技です。チームメイトと作戦を考えながら、勝利の喜びを分かち合えるのが魅力ですね。

🐰今後の展望は？

市内にも、日本ポッチャ協会の育成選手がいます。こういうことがもっと知られてポッチャが盛んになり、パラリンピックなどの世界大会に出場できる選手を育てていきたいです。

昨年度は、市内の小中学校や学習センターなどでポッチャ教室の講師を務めました。参加者の「楽しい」という声を聞くとうれしくなります。こういうところから、ポッチャがどんどん盛り上がって、この競技の魅力を多くの人に知ってほしいですね。



▲市スポーツ推進委員会研修会でポッチャを教える國分さん



We Love♥ふくしま！  
第30回『ごみを減らそう』

7月1日からレジ袋が有料となりました。皆さん、マイバッグを使っていますか？プラスチックごみ削減のため、できる限りマイバッグをご利用ください。私も、買い物用のマイバッグをいつも通勤用かばんに潜ませています。

河川などの清掃をすると、捨てられたレジ袋がいかに多いかに気が付きます。散り散りになったプラスチックごみで汚れた海の映像をご覧になった方も多いと思います。レジ袋が流れ流れて海を汚し、魚を通じて私たちが口にするかもしれないと思うと、本当にゾッとします。

福島市にとって、ごみ問題は頭の痛い課題です。一人当たりのごみ排出量は全国ワーストクラス。なかなか脱却できません。何とか令和3年度までにごみ減量20%を達成したいと思います。

そのため、ごみ減量大作戦を展開。生ごみの水切りや堆肥化の徹底、「おいしい食べきり！2020運動」による食品ロス

の削減などを実施してきました。資源ごみの分別についても、6月より紙製分別ごみの出し方を改善しましたが、さらに徹底していきたいと思います。

その一環で、使用済みはがきの回収を始めました。個人情報漏洩しない方法で処理します。市役所や支所にグリーン回収用もりりんポストを設置していますので、回収にご協力ください(写真やあて名シール付きはがき、圧着はがきは、対象外です)。

他地域に比べ、ごみの構成比が高いのが草木類のごみ。庭が広く、庭木や花を楽しむ生活が定着しているからでしょう。除草や剪定後のごみは、必ず乾燥させてからお出しください。

新型コロナの影響も、ごみ減量化の逆風になっています。自宅で過ごす時間が長くなったことで、ごみが増加しているのです。プラスチック容器は水で洗い、そして紙製容器なども、資源ごみに分別してお出しください。

ごみ問題の解決には、市民一人ひとりのご協力が不可欠です。将来世代によい環境を残すため、そしてごみ処理有料化を回避するため、ご協力をお願いします。

福島市長 木幡 浩